

一体型LEDベースライト iDシリーズ シンプルセルコン階段灯 [ひとセンサ ON/OFF] (一般屋内用) 非常用照明器具 (電池内蔵型)

施工説明書 取扱説明書

保管用



リモコン自己点検機能付

一般型 [30分間][40形]	直付XLF443UNNC LE9 [器具本体：NNLF40630C + ライトバー：NNL(NNLH)4405FN LE9]
	直付XLF433UNNC LE9 [器具本体：NNLF40630C + ライトバー：NNL(NNLH)4305FN LE9]
一般型 [30分間][20形]	直付XLF213UNNC LE9 [器具本体：NNLF20630C + ライトバー：NNL(NNLH)2105FNJ LE9]
長時間定格型 [60分間][40形]	直付XLF446UNNJ LE9 [器具本体：NNLF40660J + ライトバー：NNL(NNLH)4405FN LE9]
	直付XLF436UNNJ LE9 [器具本体：NNLF40660J + ライトバー：NNL(NNLH)4305FN LE9]
長時間定格型 [60分間][20形]	直付XLF216UNNJ LE9 [器具本体：NNLF20660J + ライトバー：NNL(NNLH)2105FNJ LE9]

- ・上記()内は加工品番です。(以降、加工品番の記載を省略します。)
- ・本照明器具は、パナソニック製非常用照明器具本体と非常用照明器具専用ライトバーの組合せで性能を満足します。
- ・適合器具本体と適合ライトバーは、非常用照明器具専用です。
- ・器具の施工には電気工事士の資格が必要です。施工は必ず工事店に依頼してください。

施工説明

工事店様へ、この説明書は保守のためお客様に必ずお渡しください。

安全に関するご注意

警告

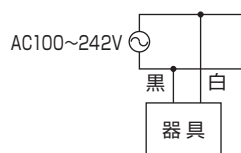
- 施工は、施工説明にしたがい確実に行う。施工に不備があると落下・感電・火災の原因となります。
- 器具、光源部の分解、改造をしない。落下・感電・火災の原因となります。
- ライトバーを単独で使わない。必ずパナソニック製非常用照明器具本体(以降、本体)と非常灯専用ライトバー(以降、ライトバー)の組み合わせで使用する。落下・感電・火災の原因となります。
- 表示された電源電圧(定格電圧±6%)、周波数で使用する。指定外の電源電圧・周波数で使用すると感電・火災の原因となります。
- 壁面横取付専用です。点検スイッチが下になる方向に取り付ける。他の取付けはしないでください。落下の原因となります。
- 非常用光源部のレンズはガラス製のため、取り扱いに注意する。破損によるけがの原因となります。
- ライトバーが破損した状態で使わない。落下・感電・火災の原因となります。
- 蓄電池を短絡・分解したり火や水に投入しない。破裂・やけど・感電・火災の原因となります。

注意

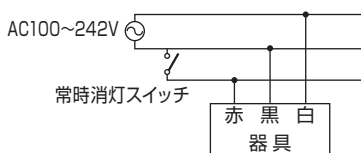
- この器具は一般屋内専用です。直射日光の当たる場所、雨水のかかる場所、風の強い場所、湿気の多い場所、腐食性ガスの発生する場所、振動の強い場所、外の風やエアコンの冷風が直接当たる場所では使用しないでください。落下・感電・火災の原因となります。
- 一般屋内でご使用の場合でも、器具周囲に硫黄成分が存在する場所では使用しないでください。光学性能に影響を与える場合があります。(一部の食品や薬品、紙類などには硫黄成分が含まれます。また、車の排気ガスにも硫黄成分が含まれます。)
- 周囲温度は、5～35℃で使用してください。指定外の周囲温度で使用すると、蓄電池の劣化、ちらつきや短寿命及び非常点灯しない原因となります。
- 寒冷地等で外気に通ずる場所に設置した場合、非常点灯時間が極端に短くなる恐れがあります。やむを得ず設置する場合は、非常点灯時間の点検を頻繁に行ってください。(少なくとも半年ごとの点検は必要) 自己点検用リモコン(別売)をご使用頂けると、点検が簡単となります。
- 電源方式により騒音(うなり)が大きくなる場合がありますので、以下の配線を行ってください。
 - ・三相電源を使用する場合は、必ず接地側を器具の端子台のN側に接続してください。
 - ・電源と器具間に片切りスイッチを設ける場合は、必ず非接地側(充電側)に取り付けてください。
- 非常用照明器具です。階段通路誘導灯(非常灯兼誘導灯)には適合しません。
- 電源と通電せずに、蓄電池を接続したまま放置しないでください。蓄電池の劣化や短寿命の原因となります。
- 48時間充電後、非常点灯の確認をしてください。充電しないと非常点灯しません。
- ライトバーのカバーはポリカーボネート製のため、直射日光の当たる場所や蛍光灯が近接する場所などの紫外線の多い場所、ヘキサンやアセトンなどの有機溶剤が使用される場所では使用しないでください。カバーの劣化・破損の原因となります。
- 器具の取り付け、取り外しは手袋などの保護具を使用してください。けがのおそれがあります。

配線種類

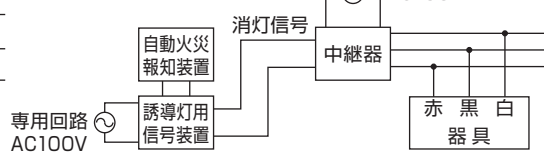
A. 自火報連動による100%点灯なし・消灯なし(2線式配線)の場合



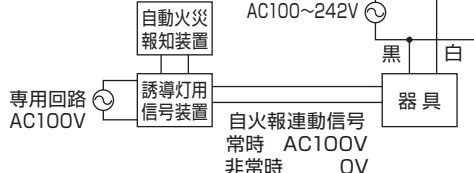
B. 自火報連動による100%点灯なし・スイッチ消灯あり(3線式配線)の場合



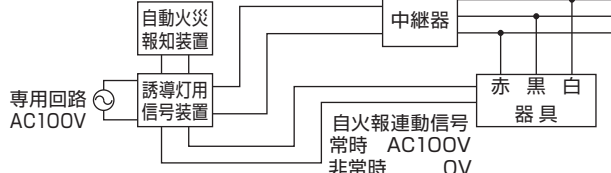
C. 自火報連動による100%点灯なし・信号装置消灯あり(3線式配線)の場合



D. 自火報連動による100%点灯あり・消灯なし(2線式配線)の場合



E. 自火報連動による100%点灯あり・信号装置消灯あり(3線式配線)の場合



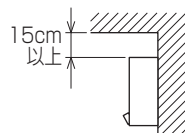
施工上のご注意

- ・バーコードリーダーの機種によっては器具付近で使用した場合、読み取り感が鈍くなることがあります。この場合には、器具との距離を離すか遮蔽するなどの対策を講じてください。
- ・虫の飛来が多い場所で使用される場合は、ライトバー内に虫が侵入する恐れがあります。このような場合は、直管LED非常用照明器具などの器具をお勧めします。
- ・センサ検知に関する注意事項は、**（センサ検知の注意）**（4ページ）をご確認ください。

各部のなまえと取付方法

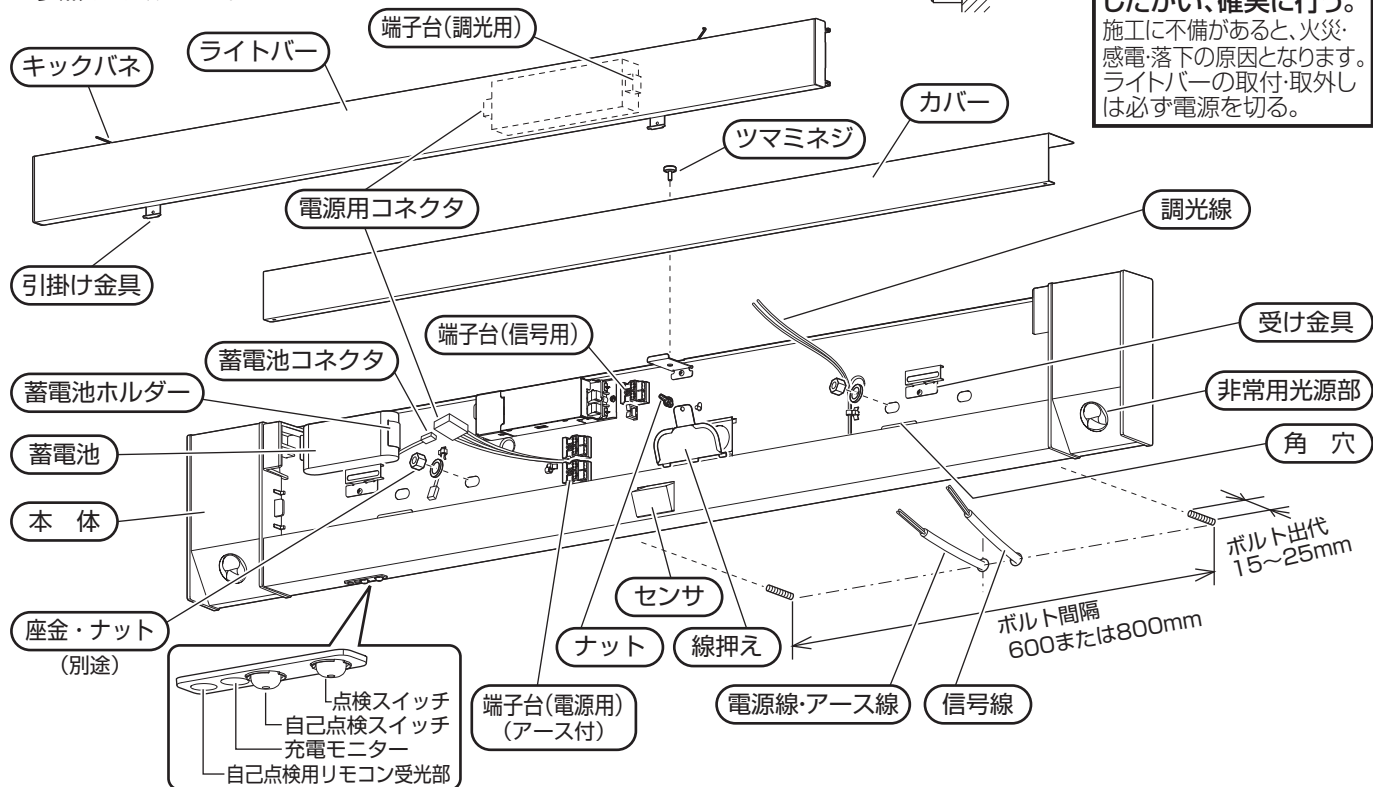
※※図は NNLF40660J の例で説明しています。器具背面図は次ページを参照してください。

・天井面とは15cm以上離してください。スペースがないとカバーの取外しができません。



警告

施工は、施工説明にしたがい、確実に行う。
施工に不備があると、火災・感電・落下の原因となります。ライトバーの取付・取外しは必ず電源を切る。



1 取付前の確認

- ・既設器具取替の場合、周辺機器の電気容量を確認する。不備があると感電・火災の原因となります。
- ・器具質量(5.9kg:NNLF40660J+ライトバーの場合)に十分耐えるよう、取付ボルト取付部の強度を確保する。
(取付ボルトは、W3/8またはM10を使用する。)
不備があると器具落下の原因となります。

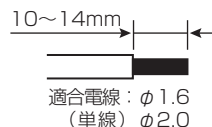
2 本体の取付

- ・ツマミネジを外し、カバーを取り外す。ナットを外し、線押えを取り外す。
- ・電源線・アース線を本体の電源穴から、信号線を本体の信号用穴からそれぞれ引き込んでおく。
- ・センサを下側にし、座金・ナットで取付ボルトに本体を確実に取付ける。(推奨トルク値: 1.5N・m)
取付方向を間違えるとセンサが正常に動作しません。取付けに不備があると器具落下の原因となります。

3 電源線・信号線・アース線の接続

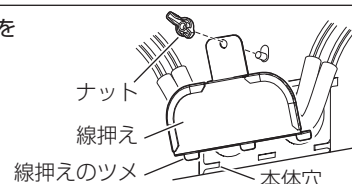
・**（電源線・信号線の接続方法）**（5ページ参照）

- により確実に接続を行う。
- ・アース線を確実に接続する。
- ・端子台の容量は、20Aです。
(送り機能付)
- ・D種（第3種）接地工事が必要。
接続が不完全な場合や容量オーバーの場合、感電・火災の原因となります。

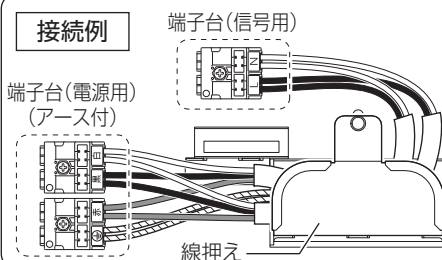


電源線接続後、余分な電源線を電源穴へ押し戻し、線押えで処理してください。

- ・線押えのツメ3箇所を、本体穴に差し込み、ナットを締め付ける。



接続例

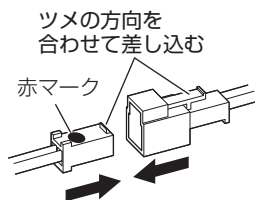


- ・線押えから各端子台への余分な電源線は、適切な長さに切断し、端子台までまっすぐに配線すること。不備があるとライトバーの電源と干渉し電源線損傷による感電・火災の原因となります。

各部のなまえと取付方法 (続き)

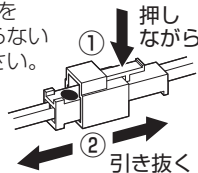
4 蓄電池コネクタの接続

- 蓄電池から梱包用テープを外す。
- 蓄電池コネクタの方向を合わせ確実に奥まで差し込む。
方向を間違えると器具が故障します。
接続が不完全な場合、非常点灯不良の原因となります。
- 電源通電までに長時間かかる場合はコネクタを接続せず、通電後にコネクタを接続してください。
- 蓄電池の劣化や短寿命の原因となります。



解除方法

注)電線を引っ張らないでください。

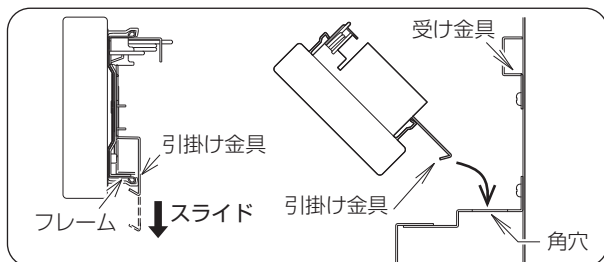


5 設置年マークの貼付け

- 器具内に貼付けられている設置年マークの該当する年度を、器具の外郭に貼り付ける。

6 ライトバーの引掛け

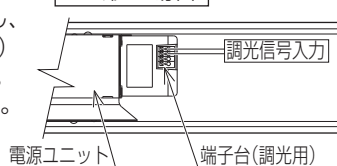
- ライトバーの引掛け金具 (2箇所) をフレームに当たるまでスライドさせ、本体の角穴に片側ずつ確実に引掛ける。
- 取付が不完全な場合、ライトバー落下の原因となります。



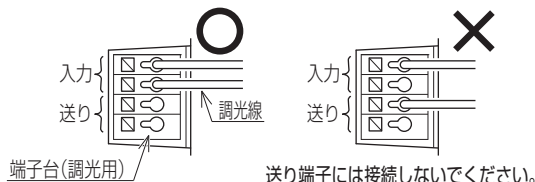
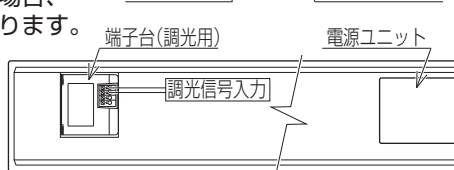
7 調光線の接続

- 調光線の青テープを取り外し、ライトバーの端子台 (調光用) の入力端子に確実に差し込む。
- 調光線に極性はありません。
- 接続が不完全な場合や容量オーバーの場合、火災の原因となります。

40形の場合

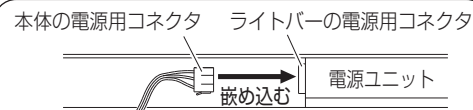


20形の場合



8 コネクタの接続

- 電源用コネクタの青テープを取り外し、本体とライトバーの電源用コネクタを確実に接続する。
『カチッ』と音がするまで嵌め込んでください。
- 接続が不完全な場合、火災の原因となります。



9 ライトバーの取付

- ライトバーのキックパネ (40形: 2箇所, 20形: 1箇所) を、本体の受け金具に確実に取付ける。
- コネクタを挟まないようライトバーを本体に押し付ける。
- 不備があるとライトバー落下の原因となります。



10 カバーの取付

- ツマミネジで、カバーを本体に固定する。
- 取付が不完全な場合、カバー落下の原因となります。

11 点灯確認

- 電源通電状態でライトバーおよび充電モニターが点灯するか確認する。
- 点検スイッチを押し非常点灯を確認する。
(充電モニターは消灯します。)

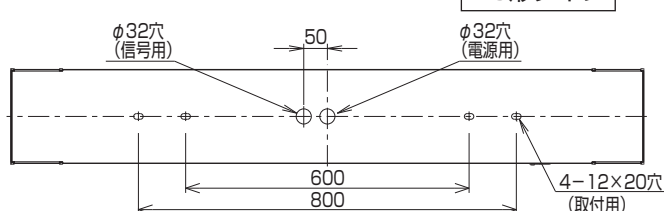
蓄電池は設置後通電し充電しないと非常点灯しません。
正常に動作しない場合は「故障かな?と思ったときは」
(11ページ)の項をご確認ください。

12 センサの動作確認

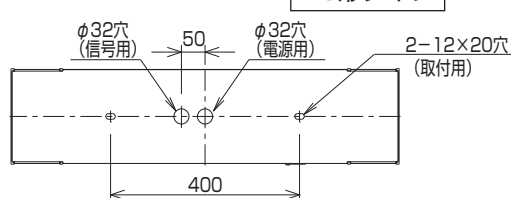
- 「センサ動作説明」(4ページ)を参照し、実動作で正常動作することを確認する。
- 正常に動作しない場合は「センサが正常動作しないときは」
(5ページ)の項をご確認ください。
- 点灯確認後、長時間電源を通電しないときは蓄電池を外してください。
- 蓄電池の劣化や短寿命の原因となります。

器具背面図

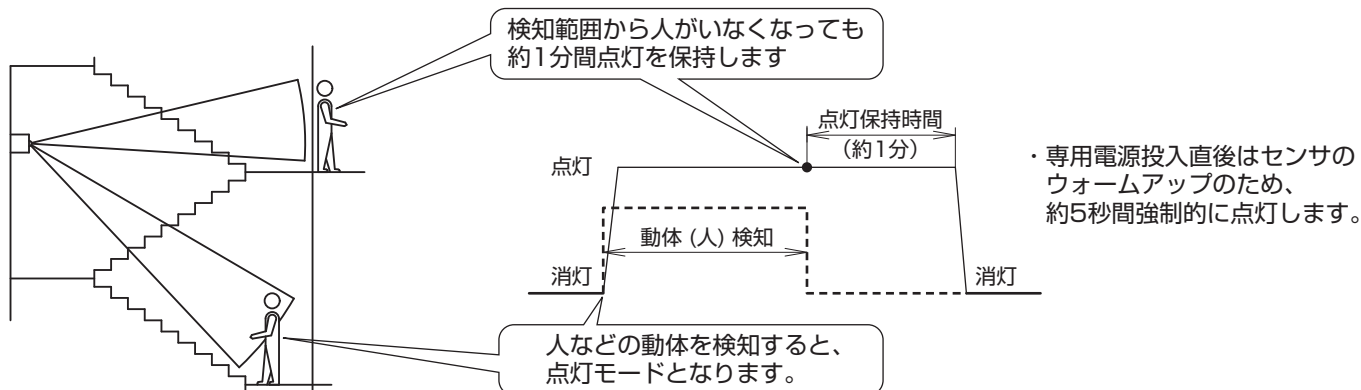
40形タイプ



20形タイプ



センサ動作説明

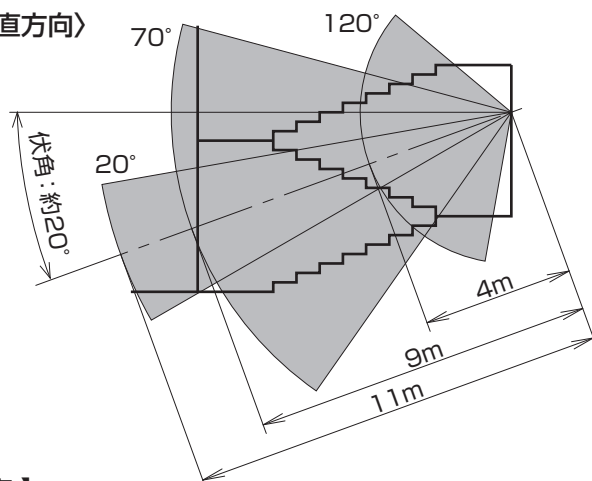


センサ検知の注意

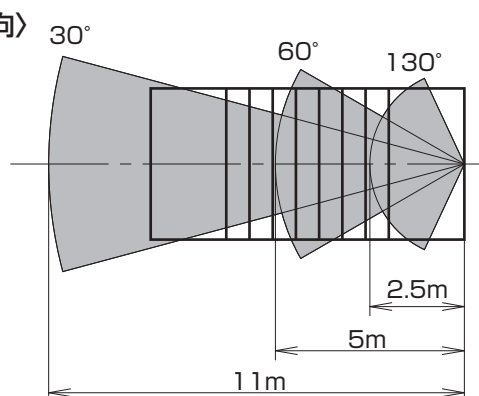
センサ検知範囲

- センサの検知範囲は、センサを頂点とする円錐形の重ね合わせ内です。母線と垂直/水平面への投影時の放射角は下記の通りです。ただし、下記に示す範囲の外側にも達している電波も若干ありますので、検知範囲外の人などをまれに検知することがあります。
- センサは移動体（移動スピード：0.3～2m/sec）を検知する為、静止している場合や動きの小さい場合には、検知しないことがあります。

〈垂直方向〉

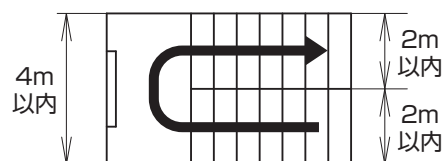


〈水平方向〉



【注意】

- (1) 階段の幅は2m以内（踊り場の幅は4m以内）としてください。電波がまばらとなり、正常動作しない場合があります。
- (2) この器具（センサ）は動体を検知するため、検知範囲内に下記の機器や動体がある場合、それらを検知して点灯する場合があります。
 - （例）・自動販売機、エアコン、換気扇などの稼動部位
 - ・検知エリア内の照明器具（銅鉄安定器内蔵品）
 - ・ブラインドやカーテンなどの動き
 - ・階段室以外に届く検知エリア内での動体（エレベータのドアの開閉など）
 - ・ガラス窓の外での動体
 - ・人体以外の小動物の動き（虫も含む）



- (3) 特に右表に示す機器は、誤検知の影響とならないようセンサから距離を取って回避してください。
- (4) 屋外に通ずる開放的な階段など、光に誘われて寄ってくる虫が多い階段などへの設置は、推奨できません。
- (5) センサの電波を遮へいする障害物がある場合は、検知できません。
- (6) 振動の強い場所では、建物自体の揺れを検知し100%点灯となり期待通りの省エネ効果が得られない場合があります。
 - （例）・電波を透過する壁材（木材、石膏ボードなど）の背後に動体（エレベーターなど）がある場合
 - ・検知エリア内の反射物（金属など）により電波が反射される場合
- (7) センサの検知範囲には制限がありますので、垂直及び水平方向の検知範囲を確認の上設置をお願いします。階段側壁への設置にはおすすめできませんのでご注意ください。

対象機器	センサからの隔離距離
換気扇	検知エリア外
自動販売機	自動販売機から直線距離で3m以上
銅鉄タイプ蛍光灯安定器 搭載照明器具	同照明器具から直線距離で1m以上

センサが正常動作しないときは

表にしたがってお調べいただき、処置を行ってください。

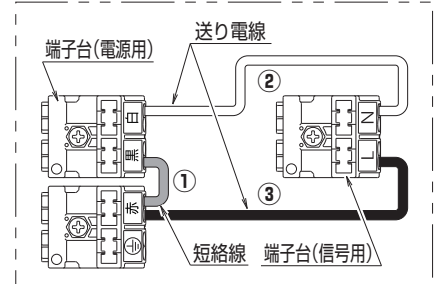
現 象	考えられる原因	処 置
●人が いなくなっても 消灯しない	調光線が接続されていない	調光線を接続する。 (3ページ「7 調光線の接続」参照)
	検知範囲内に人以外の動体がある	人以外の動体を取り除く。 (4ページ「センサ検知の注意」参照)
	信号端子の入力が0V	信号装置を接続する。または電源端子から信号端子へ 送りをとる。(5ページ参照)
●点灯しない	センサの前に障害物がある	障害物を取りのぞく
	常時消灯スイッチがOFFになっている	スイッチをONにする(3線式配線の場合)

電源線・信号線の接続方法

- ・システム配線仕様に合わせて、A～Eのパターンより適切な方法で結線願います。
誤結線されますと、火災・感電・破損の原因となります。
- ・電源電圧はAC100～242Vです。
電圧を間違えますと、火災・感電・破損の原因となります。
- ・出荷時は短絡線①および、送り電線②③が接続されています。

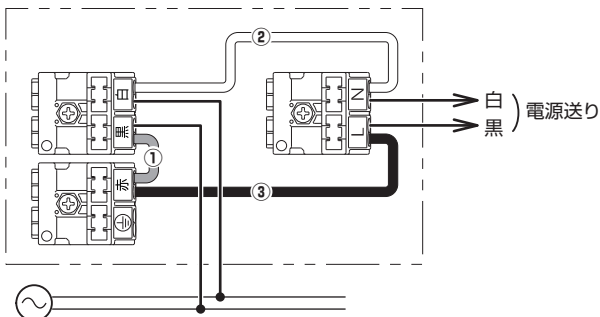
出荷時の器具仕様

(注) 2点鎖線は器具内を示します。



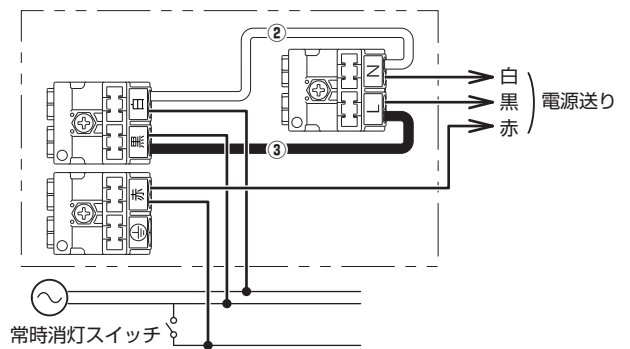
A. 自火報連動による100%点灯なし・消灯なし(2線式配線)の場合

- ・①②③を接続したまま、下図の通り接続してください。
【②③を取り外すとセンサが動作しません。】



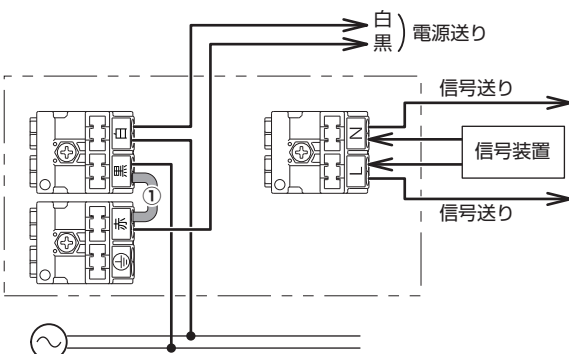
B. C. 自火報連動による100%点灯なし・消灯あり(3線式配線)の場合

- ・短絡線①を取り外してください。
- ・送り電線③を下図の通り接続し直してください。
【②③を取り外すとセンサが動作しません。】
- ・信号装置による消灯の場合はスイッチではなく中継器を用いた配線になります。



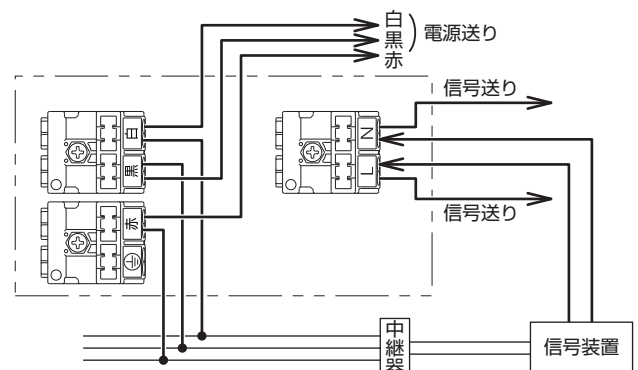
D. 自火報連動による100%点灯あり・消灯なし(2線式配線)の場合

- ・送り電線②③を取り外してください。
- ・下図の通り接続してください。



E. 自火報連動による100%点灯あり・消灯あり(3線式配線)の場合

- ・短絡線①、送り電線②③を取り外してください。
- ・下図の通り接続してください。



取扱説明

お客様へ、この説明書は必ず保管ください。

・ご使用前にこの取扱説明書を必ずお読みのうえ、正しくお使いください。

安全に関するご注意

⚠ 警告

- 器具、光源部の分解、改造をしない。落下・感電・火災の原因となります。
- 布や紙など燃えやすい物でおおわない。落下・感電・火災の原因となります。
- 万一、煙が出たり、異臭がするなどの異常が発生した場合、すぐに電源を切り、工事店に修理を依頼する。
そのまま使用すると、感電・火災の原因となります。
- 必ずパナソニック製iDシリーズ非常用照明器具本体と非常灯専用ライトバーとの組み合わせで使用する。
落下・感電・火災の原因となります。
- ライトバーの取り付け・取り外しは、必ず電源を切る。感電の原因となります。
- 充電モニタ(緑色)が点滅している場合、通電状態で蓄電池を交換してください。
通電状態でない場合、充電モニタ(緑色)の点滅が正常(点灯状態)に戻りません。
- 製品に衝撃を与えない。破損した場合、感電・火災の原因となります。
万一、破損した場合、すぐに電源を切り交換してください。
- ライトバーが破損した状態で使用しない。落下・感電・火災の原因となります。
- 蓄電池を加熱したり、火や水に投入しない。破裂する危険があります。
- 蓄電池を分解しない。やけど・感電の原因となります。蓄電池内の液は、皮膚や衣類をいためます。
- 落下した蓄電池は使用せず、回収をリサイクル業者に依頼する。
但し、落下した際にケースが破損した場合は、電極部と金属部分が接触しないよう電気絶縁用ビニルテープで絶縁し、各自治体のルールに従い、廃棄物として処理する。
不備があるとショートによる破裂・やけど・感電・火災の原因となります。

⚠ 注意

- 光源として高輝度LEDを使用しています。長時間の直視は避けてください。
- シンナー、ベンジン、アルカリ系洗剤で器具を拭かないでください。
変色・変質・強度低下による破損の原因となります。
水または中性洗剤を用いて、汚れた部分を軽く拭き取ってください。
- 照明器具には寿命があります。^(※1)
法令に基づいて定期的に点検を実施してください。
点検せずに長時間使い続けるとまれに落下・感電・火災などに至る場合があります。
- 1年に1回は「安全チェックシート」に基づき自主点検してください。
3年に1回は工事店等の専門家による点検を受けてください。
必要な場合は弊社営業所へお申し出ください。(チェックシート番号：CLX2021HA)
点検せずに長時間使い続けるとまれに落下・感電・火災に至る場合があります。
- 長時間器具を使用しない場合は、蓄電池は外してください。蓄電池の劣化や短寿命の原因となります。

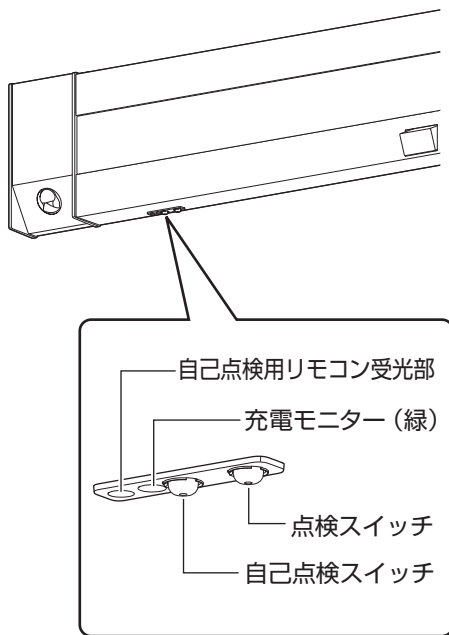
※1 照明器具は、使用条件、使用環境で異なりますが、8～10年が取り換え時期の目安です。
但し、蓄電池は、4～6年です。使用条件は周囲温度30℃です。

■LED光源の寿命は40000時間です。周囲温度が高い場合・点灯時間が長い場合など寿命が短くなります。
点灯出来るからといって継続して使用が可能というわけではありません。

使用上のご注意

- ・光源として高輝度LEDを使用しています。光源部を長時間直視しないでください。
- ・ラジオ、テレビや赤外線リモコン方式の機器は照明器具から離してご使用ください。
雑音が入ったり、正常に動作しない場合があります。
- ・同時通訳機等の誘導無線をご使用になれる場合、雑音が入る場合があります。
事前に確認し、対策を講じてください。
- ・LED素子にバラツキがあるため、同じ品番のライトバーでも光色・明るさが異なる場合があります。
予めご了承ください。
- ・電源電圧変動などの影響により瞬間的に明るくなったり暗くなったりする場合があります。
予めご了承ください。
- ・ライトバーの品種により始動時間が異なる場合があります。
- ・点灯直後・消灯直後にプラスチックの伸縮によるきしみ音が発生する場合がありますが、
故障や異常ではありません。
静かな環境でご使用の場合、きしみ音が気になる場合があります。
この様な場合は直管LED等のプラスチック製力バーのないタイプをお勧めします。
- ・長期間器具を使用しない時は、蓄電池は外してください。蓄電池の劣化や短寿命の原因となります。

モニターと自己点検スイッチについて



●充電モニター（緑）

蓄電池が充電されているか確認できます。
また自己点検『可』のお知らせをします。

	緑色点灯	正常です。
	点灯しない	- 蓄電池が充電されていません。 - 非常点灯になっていないか、または、蓄電池コネクタが外れていないかを確認してください。 - リモコンの「点検」スイッチまたは「確認」スイッチを押した場合、点検『不可』をお知らせします。
	緑色点滅	蓄電池の交換時期の目安です。 蓄電池の容量低下や異常を緑色点滅でお知らせします。
	約1秒間 緑色点滅 (4回)	リモコンの「確認」スイッチを押した場合 点検『可』をお知らせします。

●自己点検スイッチ

- 蓄電池の容量確認検査が行えます。
(判定に一般型は30分、長時間定格型は60分かかります。)
- 2秒以上押すと検査を開始します。
(充電モニター(緑)が消灯します。
検査終了後は自動的に復帰します。)
- 自己点検スイッチの動作には、48時間以上の充電が必要となります。
(48時間以内に、3秒以上の停電・非常点灯があった場合は
点検動作しません。)

自己点検用リモコンについて

適合リモコン品番：FSK90910K（別売）

【スイッチ各部の名称と働き】

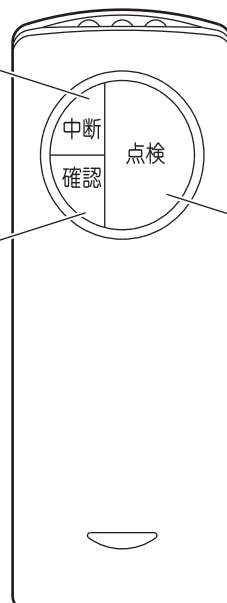
「中断」スイッチ

点検動作を中断し、通常状態に復帰させる
ときに使用します。

注) 中断させると再度、48時間以上充電しないと点検できません。

「確認」スイッチ

非常灯器具が48時間の充電が完了している
かを確認するときに使用します。



チャンネル

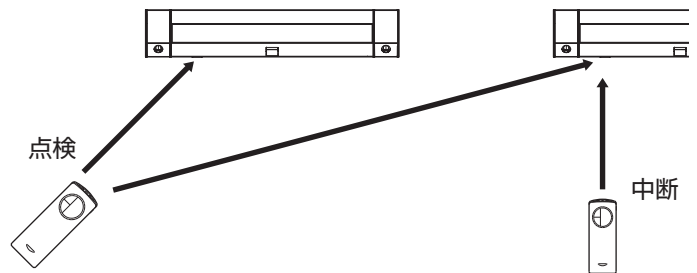
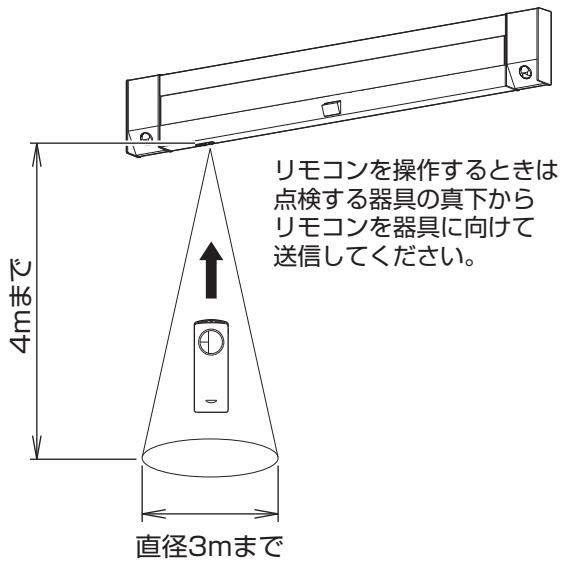
使用時、チャンネルは「2」に
セットして下さい。

「点検」スイッチ

定格時間の非常点灯確認を開始します。
(器具本体の自己点検スイッチを押したときも
同様です。)

自己点検用リモコンについて（続き）

【リモコン操作エリアについて】



直下からリモコンを操作しない場合、隣接する器具も受信してしまうことがあります。その際は隣接する器具の直下から、リモコンの「中断」スイッチを押して点検を中断してください。
注）中断させると再度、48時間以上充電しないと点検できません。

【リモコンによる点検方法】

- ・チャンネルを「2」にセットしてください。
- ・充電モニター（緑）が点灯していることを確認してください。

1	リモコンの「確認」スイッチを押し、器具本体の充電モニター（緑）を確認する。 ・充電モニター（緑）が約1秒間点滅（4回） ⇒ 点検準備が出来ています。②に進んでください。 ・充電モニター（緑）が約1秒間消灯 ⇒ 点検準備が出来ていません。48時間以上充電してください。
2	リモコンの「点検」スイッチを押し、器具本体の充電モニター（緑）を確認する。 ・充電モニター（緑）が消灯（非常点灯に切り換わりします） ⇒ ③に進んでください。
3	器具本体の充電モニター（緑）で、蓄電池の容量を確認する。 （判定に、一般型は30分、長時間定格型は60分かかります） ・充電モニター（緑）が点灯 ⇒ 正常です。 ・充電モニター（緑）が点滅 ⇒ 蓄電池の交換時期です。

※途中で点検を中断する場合

リモコンの中断スイッチを押し、器具本体の充電モニター（緑）を確認する。

- ・充電モニター（緑）が点灯（通常状態に戻ります）

【リモコンスイッチと器具状態の対応表】

	器具の状態		
	充電中 (充電時間48時間未満)	充電完了状態 (充電時間48時間以上)	点検中
「点検」 スイッチ	充電モニター（緑） 約0.5秒間消灯 (光源が点灯)（注）	点検開始 (充電モニター（緑） 点灯⇒消灯)	— (充電モニター（緑） 消灯したまま)
「中断」 スイッチ	— (充電モニター（緑） 点灯したまま)	— (充電モニター（緑） 点灯したまま)	点検中断 (充電モニター（緑） 消灯⇒点灯)
「確認」 スイッチ	充電モニター（緑） 約1秒間消灯 (注)	充電モニター（緑） 約1秒間点滅(4回) (注)	— (充電モニター（緑） 消灯したまま)

（注）リモコンスイッチを押し続けると左記の状態を繰り返します。

（例：「確認」スイッチを押し続けると、充電モニター（緑）が点滅し続けます。）

— の場合は充電モニターの状態に変化はありません。

お手入れ・部品交換

- 器具の清掃について・・・水または中性洗剤を用いて、汚れた部分を軽く拭き取ってください。シンナー、ベンジン、アルカリ系洗剤で拭かないでください。
変色・変質、強度低下による破損の原因となります。
- 部品の交換について・・・本体表示にしたがって、下記の指定された部品を使用してください。

【交換部品】

器具本体	蓄電池
NNLF40630C NNLF20630C	FK763 (6.0V 1200mAh)
NNLF40660J NNLF20660J	FK850 (6.0V 3000mAh)

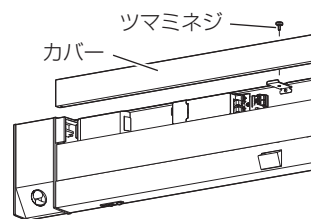


警告

- 感電の恐れあり**
器具清掃時は、必ず電源を切ってください。(非常点灯します。)
- パネル破損のおそれあり**
ライトバーのパネルは樹脂製です。取扱いに注意してください。
- レンズ破損のおそれあり**
非常用光源部のレンズはガラス製です。取扱いに注意してください。

蓄電池交換方法

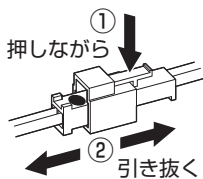
- 充電モニタ(緑)が点滅している場合、通電状態で蓄電池を交換してください。点滅が解除されます。無通電状態で蓄電池を交換した場合は充電モニタ(緑)の点滅が解除されません。
- 3線式配線の場合、ライトバーの電源(壁スイッチなど)を切って作業してください。
2線式配線の場合、ライトバーが点灯したままとなりますので、光源を直視しない、手袋などの保護を使用し直接光源部に触らないなど安全に配慮ください。



1 ツマミネジを外し、カバーを取外す

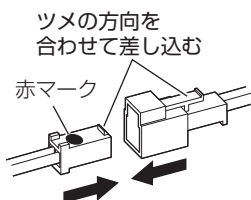
2 蓄電池コネクタを抜く

注) 電線を引っ張らないでください。



3 蓄電池を交換する

- 右記「蓄電池交換図」を参照し、古い蓄電池を取外して、新しい蓄電池を取付ける。
- 蓄電池コネクタの方向を合わせ確実に奥まで差し込む。
方向を間違えると器具が故障します。接続が不完全な場合、非常点灯不良の原因となります。



4 電池交換年マークの貼付け

- 新しい蓄電池に同梱されている電池交換年マークの該当する年度を、設置年マークの近傍に貼り付ける。

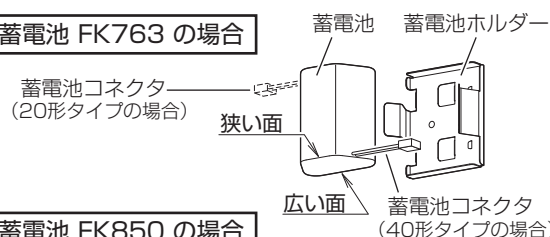
5 カバーを取付ける

- ツマミネジで、カバーを本体に固定する。
取付が不完全な場合、カバー落下の原因となります。

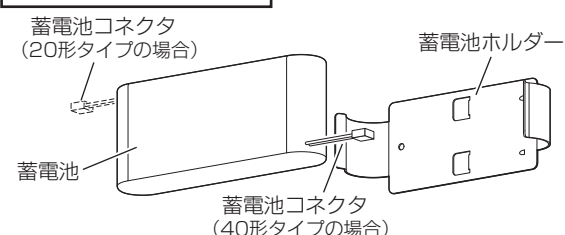
蓄電池交換図

- 取外し・・・蓄電池ホルダーから蓄電池を引き抜く
- 取付・・・蓄電池を蓄電池ホルダーにはめ込む

蓄電池 FK763 の場合



蓄電池 FK850 の場合



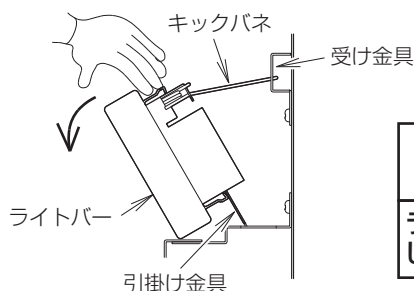
●手順5まで行ったあと、点灯確認とセンサの動作確認は

(各部のなまえと取付方法) (3ページ) の手順 11～12 を参照して行ってください。

■ライトバーの取外し方法

- ①ツマミネジを外し、カバーを取外す
- ②手でライトバーを引っ張り、キックパネを受け金具の穴から外す。
- ③ライトバーから本体の電源用コネクタと調光線を外す。
- ④ライトバーの引掛け金具を本体から外す。

- ライトバーの取付は、(各部のなまえと取付方法) (3ページ) の手順6～9を参照して行ってください。



警告

ライトバーの取付・取外しは、必ず電源を切る。

◆点検実施のお願い 電池内蔵型器具は性能維持のため、6ヶ月に1回は非常点灯への切り替え、非常点灯時間の確認を必ず行ってください。
 (常に適正な状態に維持するために、法令*で定められた定期の点検に加え、上記点検の実施をお願いします。非常点灯が極端に短くなるおそれがあります。)
 ※誘導灯は消防法令、非常用照明器具は建築基準法令に定められています。

○設置年月日 年 月 日

○取付場所

○器具No.

点検年月日	点検状態		点検者	点検年月日	点検状態		点検者	点検年月日	点検状態		点検者
	外観	機能			外観	機能			外観	機能	

システム動作説明

システム状態		配線方法				
		A.自火報連動による100%点灯なし・消灯なし (2線式配線)の場合	B.自火報連動による100%点灯なし・スイッチ消灯あり (3線式配線)の場合	C.自火報連動による100%点灯なし・信号装置消灯あり (3線式配線)の場合	D.自火報連動による100%点灯あり・消灯なし (2線式配線)の場合	E.自火報連動による100%点灯あり・信号装置消灯あり (3線式配線)の場合
常 時	無人時	消灯				
	有人時 (センサ検知)	100%で点灯				
	消灯信号入			消灯		消灯
	スイッチ「開」		消灯			
非常時 (火災信号受信)	無人時	消灯			100%で点灯	
	有人時 (センサ検知)	100%で点灯				
	スイッチ「開」		消灯			
非常時 (停電時)		非常用光源点灯				

故障かな?と思ったときは

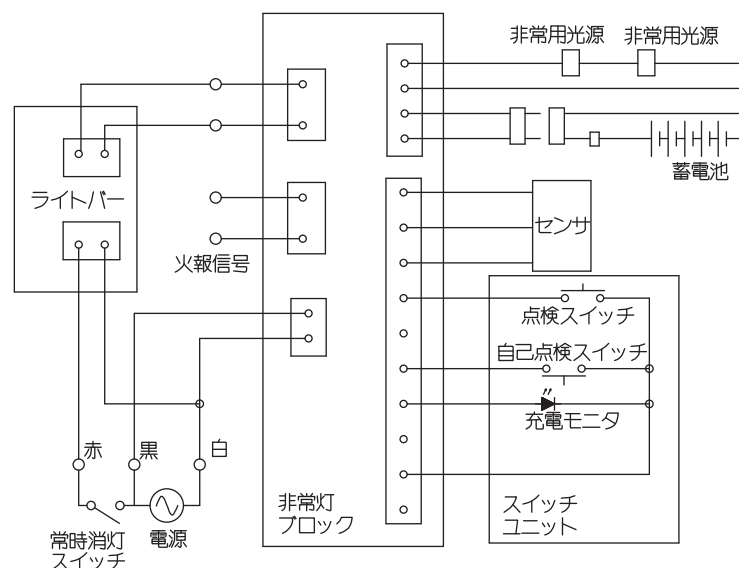
表に従ってお調べいただき、なお異常がある場合は、すぐに電源を切り、工事店に修理を依頼してください。

現象	考えられる原因	処置
常時、ライトバーが点灯しない	ライトバーの寿命	ライトバーを交換する
	常時消灯スイッチがOFFになっている	常時消灯スイッチをONする
無人時、消灯しない (自火報連動による100%点灯なしの場合)	調光線が接続されていない	調光線を接続する。 (3ページ「7 調光線の接続」参照)
非常点灯しない	蓄電池コネクタ外れ	コネクタを接続する
短時間しか点灯しない (30分未満 (長時間定格型は60分未満))	蓄電池の充電不足 (保管時の自然放電や、施工時の放電など)	48時間以上充電する
	蓄電池の寿命	蓄電池を交換する
充電モニターが点滅している	蓄電池の寿命	通電状態で蓄電池を交換する
充電モニターが点灯しない	蓄電池コネクタ外れ	コネクタを接続する
自己点検スイッチが動作しない	2秒以上押していない	2秒以上押す
	48時間以上充電していない	48時間以上充電する
	48時間以内に3秒以上の非常点灯、停電があった	
	48時間以内に蓄電池コネクタを外した	
リモコンの点検スイッチが動作しない	48時間以上充電していない	48時間以上充電する
	48時間以内に3秒以上の非常点灯、停電があった	
	48時間以内に蓄電池コネクタを外した	

保証について

- ・保証について…… この商品の保証期間は1年間です。但し、LED電源は3年間です。
電池などの消耗品は除きます。詳細は弊社カタログをご参照ください。
- ・保証書について…… 保証書が必要な場合は、弊社代理店または弊社営業所へお申し出ください。
- ・補修用性能部品…… 弊社はこの照明器具の補修用性能部品 (電気部品) を製造打ち切り後、6年間保有しています。
の保有期間 補修用性能部品には、同等機能を有する代替品を含みます。

器具定格・接続図



【定格】

組合せ品番	直付XLF443UNNC LE9			組合せ品番	直付XLF433UNNC LE9			組合せ品番	直付XLF213UNNC LE9		
定格電圧	AC100V	AC200V	AC242V	定格電圧	AC100V	AC200V	AC242V	定格電圧	AC100V	AC200V	AC242V
入力電流	0.308A	0.154A	0.130A	入力電流	0.233A	0.115A	0.108A	入力電流	0.158A	0.085A	0.075A
入力電力 (待機時)	29.6W (2.8W)	29.6W (2.8W)	29.6W (2.8W)	入力電力 (待機時)	22.8W (2.8W)	22.8W (2.8W)	22.8W (2.8W)	入力電力 (待機時)	15.6W (2.8W)	15.6W (2.8W)	15.6W (2.8W)

組合せ品番	直付XLF446UNNJ LE9			組合せ品番	直付XLF436UNNJ LE9			組合せ品番	直付XLF216UNNJ LE9		
定格電圧	AC100V	AC200V	AC242V	定格電圧	AC100V	AC200V	AC242V	定格電圧	AC100V	AC200V	AC242V
入力電流	0.308A	0.159A	0.134A	入力電流	0.234A	0.117A	0.108A	入力電流	0.167A	0.091A	0.079A
入力電力 (待機時)	30.2W (3.6W)	30.2W (3.6W)	30.2W (3.6W)	入力電力 (待機時)	23.4W (3.6W)	23.4W (3.6W)	23.4W (3.6W)	入力電力 (待機時)	16.4W (3.6W)	16.4W (3.6W)	16.4W (3.6W)



Ni-MH

この器具は、“ニッケル水素電池”を使用しております。ご使用済みの“ニッケル水素電池”は貴重な資源です。再利用しますので、廃棄しないで電池パックのまま充電式電池リサイクル協力店へお持ちしていただくか、または“一般社団法人JBRC”に依頼してリサイクルしてください。

